

# 平成28年度 全国学力・学習状況調査の結果

京都市立池田東小学校

4月19日に6年生を対象に実施された「全国学力・学習状況調査」について、分析した結果をまとめました。この調査は、国語・算数の2教科のテストと同時に、家庭での過ごし方や学習時間を問う調査（児童質問紙調査）も実施しています。生活習慣と学力との関係などもふまえ、一部ではありますが、本校の子どもたちの総体的な状況をお伝えします。

## 保護者の皆様へ

全国調査は、子どもたちの学習状況を知り、子どもたちの可能性をさらに伸ばし、課題を解決していくためのものです。結果が学力の全てではなく、順位を競うものでもありません。学力は個人の努力だけではなく、学校・家庭・地域で育てていくものだと考えています。今後ともご協力の程、よろしくお願いします。

### 総合結果（国語・算数）

国語、算数についてはそれぞれにABのテストがあり、Aは主として知識、Bは主として活用についての問題になっています。本校は、国語についてはABとも全国指数と大体同じ指数であり、概ね満足できる結果であったといえます。算数Aについては全国指数をやや下回っており、Bについてはさらに課題が残る結果となっています。

全体を通して言えることは、実生活でよく使っている語句の読み書きや計算、子どもたち自身の経験と結びつけることができる問題についてはできていますが、初めて読んだり聞いたりする内容や経験の少ないものについては、問題をイメージ化することが難しく、解答に結びつけることができなかったのではないかと思います。また、児童質問紙調査の「書く問題に対しどのように解答したか」の質問に、約7、8割の児童が「最後まで解答を書こうと努力した」と答えています。しかし、「調査問題の解答時間は十分でしたか」の質問に約35%の児童が「やや足りなかった」と答えていることや、問題の後半になるにつれて正答率が低くなっていることから、問題を最後までやりきろうという焦りからか最後までしっかりと問題を読みきることができずに解答しているところも見られます。

### 国語科より

全体的に概ね理解できています。漢字の読み書きについては日常生活でよく使う言葉についてはしっかりとできていますが、送り仮名のある漢字の読みや熟語の書き取りについては間違いが多く見られます。「読むこと」については、どの問題も全市の正答率より下回る結果となっています。特に物語を読んで複数の叙述を基にして捉える問題では正答率が約50%であり、読み取る力に課題が見られます。「書くこと」については、国語Aでは約80%の正答率であり、目的や意図に応じて書く事柄を整理することができます。国語Bでも、インタビューのメモを基に話の展開に沿った質問を書くについては約60%の正答率であり、言葉で表されているものを文章化することはできています。しかし、グラフを基に分かったことを書く問題では正答率が約30%という結果になっています。これらの結果から、書く力というよりも、資料などを読み取る力に課題があることがわかります。児童質問紙の「1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか」に対し、50%の児童が「全くしない」と答えていることから、本を読んだり、読んで考えたりすることに慣れていない実態が伺えます。読むことに対する苦手意識を克服するためにも、学校図書館や地域の図書館を活用し、読む習慣をつけてほしいと思います。

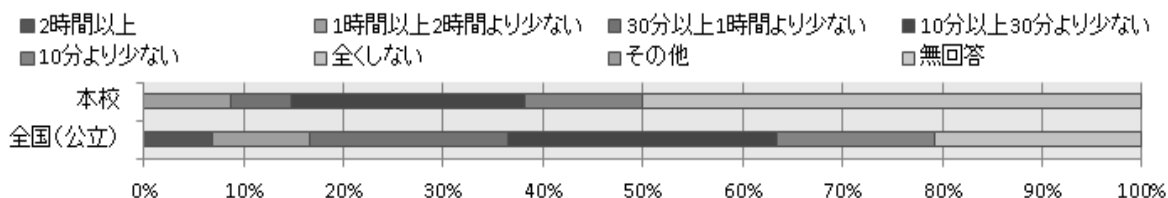
## 算数科より

全体的に、算数Aでは、「数と計算」の領域は概ね理解できており、基礎的な力が身に付いています。「図形」では、直方体の面と面の位置関係の問題では正答率が約97%と高い反面、図形の構成の問題では正答率が約65%と低くなっています。「数量関係」でも、列に並んでいる全体人数を求める問題は約82%の正答率と高く、子どもたち自身の経験や日常生活で目にしている物からイメージ化しやすいものは正答率が高く、イメージ化しにくいものは正答率が低くなっています。課題の見られるところは「単位量当たりの大きさの求め方」と「割合」のところです。つまりいている児童が多く見られ、再度復習をする必要があると感じています。

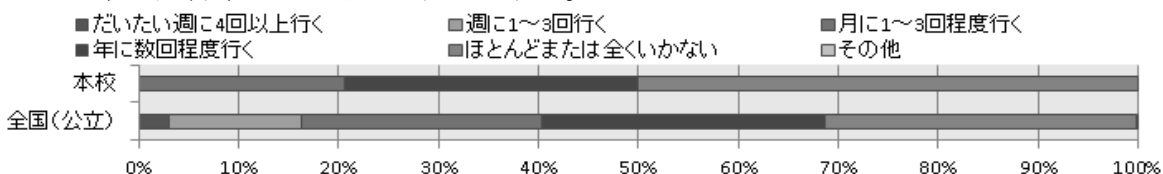
算数Bでは、問題全体の正答率が約40%と低く、無解答の率が約30%となる問題が数問ありました。児童質問紙の「調査問題の解答時間は十分でしたか」の質問に約35%の児童が「やや足りなかった」と答えていることから前半の問題に時間を費やしすぎたため、後半に時間の余裕がなくなったことが考えられます。内容については、公式にあてはめたり、絵や図を書いたりして求めることができる問題については答えを導き出すことができるものの、考え方を説明したり、理由を書いたりすることに課題が見られます。単に計算したり問題を解いたりするだけではなく、答えが導かれる過程にも目を向けてほしいと思います。

## 児童質問紙調査より

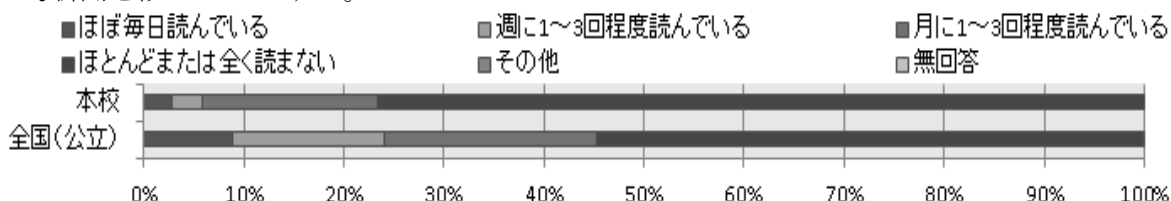
Q 学校の授業時間以外に、普段、1日当たりどれくらいの時間読書をしますか。



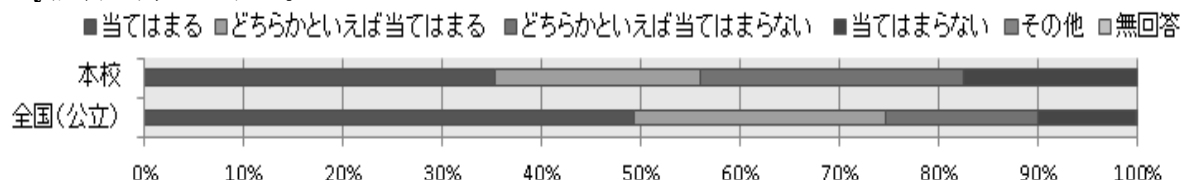
Q 昼休みや放課後、学校が休みの日に、本を読んだり、借りたりするために、学校図書館や地域の図書館にどれくらい行きますか。



Q 新聞を読んでいますか。



Q 読書は好きですか。



全国学力・学習状況調査の結果から、「読む」力が課題であるように思います。読書に関する質問について、「読書は好き」と回答した児童が約56%と全国平均より下回っています。学校の授業以外で読書を「全くしていない」児童が50%と非常に多く、学校図書館や地域の図書館に行く回数も、月に1~3回程度もしくは年に数回程度と回答しています。また、「新聞を読んでいますか」の質問に「ほとんど、または、全く読まない」と回答した児童が約77%と多く、文章を読むことが大変少なく感じます。読書は知識や想像力など、様々な力を身に付けることができます。時間を有効的に使い、読書をする時間を上手に確保することも大事だと思います。